

1

説明文の出典は三森ゆりか『外国語を身につけるための日本語レッスン』（白水社）です。外国語でコミュニケーションをするためには、日本語的な発想や仕方ではうまくいかない、ということを説いた文章です。

問一

1 頁上段 19 行目傍線（1）「あなたは何をしましたか」という質問に関して、先生が日本人生徒に期待したのは、どのように答えることだったのかを問う問題です。まず、1 頁上段 28 行目のカギかっこ内に「早く答えて」同じく 31 行目「早く、早く」とありますので、「問われたことに対して時間をかけずに答える」ことが求められていることがわかります。そして、下段 32 行目「簡単でいいから答えなさい」、同じく 46 行目「先の例は、問われたことに直接具体的な答えを返しさえすればそれで良かったのです」とありますので、「簡単でよいから直接具体的に答える」といったことが必要です。前述の箇所と合わせると、「問われたことに対して時間をかけずに、簡単でよいから直接具体的に答えること。」といったことが正解です。

問二

1 頁下段 36 行目傍線（2）「私にはよく理解できない」という外国人教師のことばに関して、もし日本人同士の会話であったら、相手の答えが理解できない場合、聞き手はどうするかを問う問題です。1 頁上段 2 行目「たとえ相手の話の内容がよく理解できなくても、「理解できない」と指摘することは滅多にしません。」から 5 行目「そのまま通り過ぎてゆくのが日本語の対話の特徴である」までの箇所に注目します。また、同じようなことは、2 頁上段 66 行目「自分が立てた質問に対して相手が直接的な答えを返さなければ、質問をして当人は深追いをしません。」から 70 行目「あまり気に止めることもなく次の話題に移ってゆく」までの箇所にも出てきます。したがって、解答としては次の 3 つの要素が必要です。すなわち「理解できない」と指摘しないということ、「わからないままにしておく」ということ、「そのまま通り過ぎてゆく」ということです。

問三

1 頁下段 36 行目傍線（3）「余計なことに気を回さず」とありますが、上段の 19 行目から 26 行目に紹介されている会話の日本人生徒の考えはどれかを選ぶ問題です。24 行目に「私は…特に何もしませんでした」とあります。つまり、厳密には「何もしなかった」のではなく、「＜普通ではない特別なことは＞何もしなかった」という意味ですから、選択肢ではアの「とりたてて言うことはしていないと考えた」が正解となります。

問四

2 頁上段 66 行目傍線（4）「一般的な日本人の言語環境」とありますが、そのなかにおいて重視されていることを文中から 15 字以内で抜き出す問題です。1 頁上段 1 行目に「日本語の言語環境の中では、察し合うこと、気を配ることが大変重要視されています」とありますので、「察し合うこと、気を配ること」を抜き出します。

問五

2 頁下段 102 行目傍線（5）「ヨーロッパ人、そしておそらくはアメリカ人に対しても、この感覚は通用しません。」とありますが、ヨーロッパ人やアメリカ人とコミュニケーションをするために必要なことは何かを説明する問題です。それは 109 行目からの最期の形式段落に述べられています。そのなかで「111 行目「つま

り」以下がまとめの部分になっていますので、この辺りの語句を中心に、「対象を心で感受するだけでなく、同時に頭を働かせて、自分が感じた理由を探し出すこと。」などのように解答を作成します。

問六

接続詞を選ぶ問題です。Aの直前を見ますと、2頁上段97行目「感嘆詞を並べられれば十分です」とあり後には「対象への印象批評ができれば十分で」とあり、まとめ、要約の接続詞が入りますので、エが入ります。Bは直前2頁下段99行目に「日本の文化では多くを語らないことが美德とされてきました」とあり、後には「個人の心の中にある感動を無理矢理に言語化させるなどという無粋なことはしてはならないことでした」とあり、前の事柄の一部を特化したことが後に続いていますので、アの「とりわけ」が入ります。Cは前に日本人のことが書かれて、後に、日本人とは異なる「ヨーロッパ人」の話になるので、逆接の接続詞であるイの「ところが」が入ります。Dはそれまで述べてきたことを踏まえて、106行目「あなたはこうして問いに答えることができるでしょうか」と読者への投げかけに転換していますので、ウの「ところで」が入ります。

問七

漢字の書き取り問題は、楷書で丁寧で書く必要があります。

問八

本文の内容に合うものを答える問題です。この文章の後半には、ヨーロッパ人はただ「よかった」という感想だけでなくその理由も問われるから、それも言語化できなければならないといったことが述べられていました。こういったことが書かれているウが正解です。他の選択肢を見てみます。アは、なかほどの「会話中に余計なことを考えて先生の質問を正確に聞き取っていなかったからである」が本文の内容に反しています。イは、なかほどの「日本人はゆっくりと話しがちだが」が本文で述べられていないことで、エは、なかほどの「日本語的な「何もしませんでした」を多用すると」という説明が本文の趣旨を外れています。

2

物語文の出典は、大沼紀子「僕らのパレード」(『空ちゃんの食卓』ポプラ文庫、2012年)です。出題されているのは、「僕」の通う小学校のクラスで世話をされている犬の「サンちゃん」という名前をめぐる騒動に関する場面です。

問一

4頁上段3行目傍線(1)「足が三本しかないからサンちゃん」とありますが、文章中に示された「サンちゃん」という名前の本当の意味を答える問題です。5頁下段122行目に「三本足でも、お前はちゃんと走れる。だからサンちゃん」とありますので、「三本足でもちゃんと走れるという意味」が正解です。

問二

4頁上段31行目傍線(2)「むずむずしてきた」という語句に示された「僕」の気持ちを問う問題です。「むずむず」はじっとしてられないことを表す擬態語であり、4頁下段33行目にも「言いたいことがあるんなら、言っちゃえばいいじゃん」とありますので、「言いたいことがあるのに、言い出せない気持ち。」が正解です。

問三

4 頁下段 47 行目傍線 (3) 「あの、僕…。サムって、名前やろ？」とあるように、「僕」がサムという自分の名前について話した意図を説明する問題です。5 頁上段 6 9 行目に「僕は、けっこううれしかったんや。笑ってみんなが話しかけてくれて。サンちゃんも、同じやと思う。だって、サンちゃんは、サンちゃんて呼ばれたら、よろこんで走ってきてくれるもん。だから、サンちゃんは、サンちゃんていいと思います。」とありますので、「サンちゃんはそう呼ばれるとうれしがっているようなので、名前を変える必要はないということ。」といった内容が正解です。

問四

4 頁下段 47 行目 に四字のことばを本文中から抜き出す問題です。直後に「になりますようにってのを略して」とあるので、その四字のなかに「サム」という文字が含まれることがわかりますから、50 行目にある「ハンサム」が正解です。

問五

5 頁下段 98 行目傍線 (5) 「そうしてサンちゃんの名前は、サンちゃんのままでいいことになった」ありますが、子どもたちからサンちゃんと呼ばれた後の行動がどのようなものであったかを問う問題です。上段 83 行目に「みんなでサンちゃんて呼んでみて、サンちゃんがよろこんでくれたら、サンちゃんのままでいいことにせん？」という先生の提案があり、その結果がサンちゃんのままでいいことになったのですから、サンちゃんは名前を呼ばれたときに、よろこんでいるような動作をしたことがわかります。そういう表現を文中に求めますと、下段 104 行目「サンちゃんのぶんぶんふられたしっぽを見たら」とありますので、答えは「ぶんぶんしっぽをふったから」となります。

問六

5 頁下段 120 行目傍線 (6) 「足」を用いた慣用句の意味を問う問題です。一はウ、二はエ、三はア、四はオ、五はイとなります。

問七

5 頁下段 128 行目傍線 (7) 「吉川くんはめずらしく声をあげて笑い」とありますが、その理由を本文全体の内容を踏まえて説明する問題です。「めずらしく」とあるので、普段とは違う、したがって今日の特別な出来事が理由であることがわかります。そうすると、答えには「サンちゃんという名前が変えられずにすんだこと」が書かれてあることが必要です。そして、126 行目にサンちゃんが「しっぽはふりふりで」と描写されています。これはサンちゃんのよろこびを示していますので、「サンちゃんも喜んでいるように感じられた」というのも吉川くんの笑いの理由と考えられますので、この点も合わせて、「サンちゃんという名前が変えられずにすみ、「サンちゃん」も喜んでいるように感じられたから。」といった内容であれば正解となります。

問八

本文の内容に合致するものを選ぶ問題です。この文の主眼は、サムという名前を引用し僕がサンちゃんという名前を擁護したことと、村下先生の提案でサンちゃんと呼んでサンちゃんもよろこんでいるようなので、サンちゃんという名前はそのままになったということです。したがって、ウが正解です。他の選択肢を見てみます。アは、なかほどの「紺野くんは吉川くんを弁護する発言をした」が誤り。イは、なかほどの「村下先生にさりげなく発言をうながされた「僕」」が誤り。エは、後ろの方の「まゆ毛も」が誤りです。